

ジャンル別 主要事業(30年度予算分)		単位:千円
【協働・行政経営】		
春植交流センター整備事業	248,810	
地域づくり活動等交付金	296,162	
【定住環境】		
三刀屋木次IC周辺地区都市再生整備計画事業	389,100	
企業団地関連道路整備事業	474,800	
【保健・医療・福祉】		
木次こども園建設事業	154,052	
みなみかも保育園運営事業	65,000	
【教育・文化】		
学校給食センター建設事業	513,342	
永井隆記念館施設整備事業	95,034	
【産業】		
清嵐荘整備事業	1,141,564	
中心市街地活性化事業	106,432	



新本館正面玄関でテープカット（中央 速水市長、市長隣の白衣 松井病院事業管理者）

三月一日から二十二日まで開会された三月定例会において、平成二十九年度三月補正予算、平成三十年度一般会計当初予算など予算十八件、条例十六件、一般事件九件などの議案が上程されました。

平成三十年度一般会計当初予算は、交付税の減額が見込まれる中ですが、清嵐荘整備事業、学校給食センター建設事業など大型事業に積極的に取り組むことから、前年度比6.5%増の二百九十九億千四百万円となりました。

上程された議案は最終日の二十二日に賛成多数で可決成立しました（主な新規・拡充事業は左表の通りです）。

平成30年度一般会計 当初予算299億円可決成立

市立病院新本館 開院

3/22

雲南市立病院の新本館棟の建設、みなみ保育園の竣工（愛耕福祉会補助事業）に続き、七月には健康づくり拠点施設加茂B&G海洋センターの改築など、今年は大型事業が相次いで完成します。その他、神原企業団地の造成工事やスマートICの工事も進捗します。社会基盤の整備が進むことにより、安心安全で、社会人口増加に向けた定住基盤がつくられるものと期待されます。

新本館の建設に併せて、①MRI、②六人部屋から四人部屋へ一床当たりの面積増加、③スタッフステーションを館の中央に配し安全安心に配慮、④懸案だった駐車場不足解消に向けて、百五十七台の駐車スペース確保（グランドオープン時には三百二十三台）等、医療の質の向上や利便性の向上が図られます。

今後、東棟を管理棟に改築、西棟（今までの本館）は解体工事を進め、跡地を駐車場として整備、来年九月にグランドオープニングの予定です。

診療科	常勤医
1 内科	6
2 小児科	2
3 外科	6
4 整形外科	5
5 産婦人科	1
6 耳鼻咽喉科	1
7 泌尿器科	1
8 皮膚科	1
9 リハビリテーション科	1
合 計	24
10 脳神経外科	非常勤医
11 眼科	非常勤医
12 麻酔科	非常勤医
13 放射線科	非常勤医
14 精神科	非常勤医

診療科は左表の通り十四科です（従来と変わりません）。常勤医の数は、ほぼ目標の二十四人体制となり、雲南圏域の中核的な医療機関として機能を果たすことが期待されています。

三月三日、衆議院議員竹下亘様をはじめ多数の来賓のもと盛大に竣工記念式典が行われました。翌、四日には一般見学会が開催され、約一千二百名の皆様にご来館いただきました。市民の皆様の期待の高さがうかがわれます。

平成二十九年度に用地造成を終え、平成三十年度中の完成を目指して建物本体工事が始まります。来春は、新交流センターから河津桜の花見ができるかもしれません。設えていたこともあり、建て替えが計画されました。

春植交流センター改築 議員連盟



春植交流センター完成予想図

昨年末、木次線は全通八十周年を迎えた。先人が苦労して開通にこぎ着けた木次線の存続は、我々に課せられた使命といつても過言ではありません。この度、雲南市議会議員全員で「木次線活性化議員連盟」を立ち上げることにしました。議員自身も積極的に木次線の利用を心がけて参りました。皆様の積極的なご利用により、木次線が一層活性化していくべきです。

議会 瑞風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所
雲南市加茂町神原 838
電兼FAX 49-6373

たかつさんの一般質問

今冬の雪害を総括して

問

一月十日から二月七日まで続いた大雪を総括してどうだったか。

答（統括危機管理監）

人的被害はなかつたが、物的被害があり市民生活に支障が生じた。自然災害を防ぐことはできないが、減災の考えにたち的確に対応していく方針。

未除雪時の救急体制について伺う。

答（統括危機管理監）

救急車は通常三名体制だが、状況に応じて一名増員して対応した（十件）。また、救急隊にポンプ車等を加え、二隊体制で出動した（八件）。

水道の凍結被害等について伺う。

答（水道局長）

水道管の破損や漏水等により水道局に約二百五十件の連絡があつた。凍結防止策について市報、告知放送などで周知した。

大雪時における児童生徒や保護者への対応は適切だったか。

答（教育長）

二月八日は、小中学校二十二校の内、十七校を臨時休校とした。九日は加茂小学校と西小学校を休校とした。通学路の確保についで、除雪に優先度があることから十分に対応できないところがあつた。

農作物の被害状況について伺う。

答（農林振興部長）

農業用ハウス十七棟が倒壊し、被害額は二千五十七万円余である。農業復旧対策事業補助金で助成する。育苗ハウスもあり早期の対応が必要と考える。

除雪基準について伺う。

答（建設部長）

積雪が十五センチに達したら除雪作業を行う。市民バス・スクールバス路線、主要市道の順に作業を進める。

問

大田市では県道や市道という区分でなくエリアごとに業者が除雪する方法がとられている。除雪の効率性や除雪基準の統一という観点から検討してはどうか。

答（建設部長）

建設業者と相談したい。

ドーザーの回転場が無い為、行き止まり地点からバックせざるを得ず、除雪効率が悪い。回転場の整備が必要ではないか。

答（建設部長）

二十九年度に数ヵ所整備した。三十年度も回転場、待避所の整備を行う考えだ。

除雪車の貸し出し等も必要だ。

答（建設部長）

今年度から除雪ボランティア制度を始めた。小型除雪機の貸与台数は三台。幅広く除雪体制の構築に取り組んでいく。

除雪車の貸し出し等も必要だ。

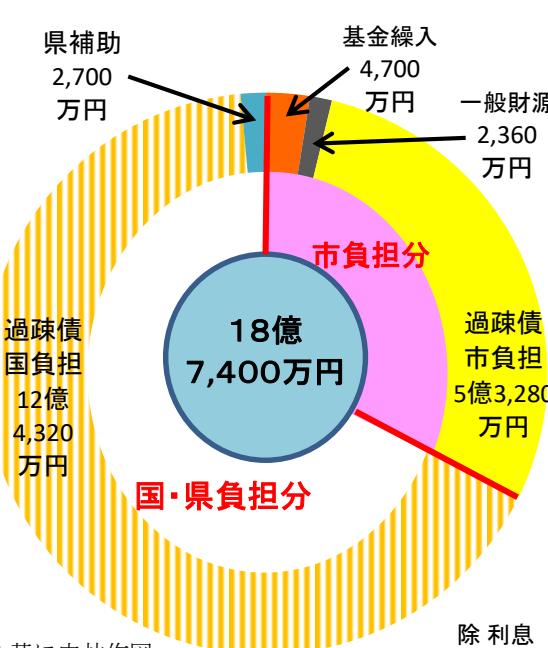
答（建設部長）

今年度から除雪ボランティア制度を始めた。小型除雪機の貸与台数は三台。幅広く除雪体制の構築に取り組んでいく。

建設の総事業費、財源、実質的な市の負担額について伺う。

答（総務部長）

総事業費は十八億七千四百万円程度を見込んでいる。財源や負担割合については次の通り。



満員の六十六名が食事をする場合、テーブルが十四だと、相席してもまだ十席足りない。代金を支払うお客様が不愉快に感じるようなことがあつてはならない、サービス業とは言えない。

答（産業観光部長）

コンサル（休暇村サービス）によれば、時間帯をずらすことで可能とのことだ。

問

六十六名が宿泊した場合、仮に食事の時間帯をずらしても無理が生じる。相席しない条件では、計算上、三十六名を第一便とすればならない。限られた席数、風呂の広さを考慮し、工夫して今後に生かしていく。

答（市長）

コンサルと検討を重ね、運営計画の中でしっかりと対応する。食事も含めお客様に気持ちよく過ごしていただけるようしなければならない。限られた席数、風呂の広さを考慮し、工夫して今後に生かしていく。

問

施設の仕様概要について伺う。

答（産業観光部長）

鉄筋コンクリート造三階建、二十四室の宿泊室で定員は六十六名。風呂は大浴場、露天、家族とも二室ずつとしている。

問

産業建設常任委員会に提出された設計図によれば、食堂の席数は五十六（一テーブルあたり四脚×十四テーブル）となつていて、宿泊定員六十六名に対し、十席足りないがどう対応するか。

繁忙期には会議室にテーブルを置いたり、和室宴会場を利用して対応する。

答（産業観光部長）

宿泊単価は九千五百円を想定、日帰り入浴料金は現在のところ三百円だが、今後、指定管理者の運営計画の中で詰めていく。

今年の冬は大雪に加え、大寒波の影響で暖かくなつたと思えば又逆戻り、そして月末は気温が急上昇しました。そのためか河津桜は遅咲き、ソメイヨシノは早咲きで、今年の春は同時に両方の花見が楽しめる



(たかし)